

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

府民に信頼され地域に根ざした、創造性豊かなものづくりができる社会人を育成する。このために次の諸点に留意する。

1. 知・徳・体・技のバランスのとれた人材の育成に努める。
2. 生徒一人ひとりの学力を伸長させ、将来的な展望を持たせ自己実現できるように努める。
3. 生徒一人ひとりを大切にし、人権感覚豊かなエンジニアの育成に努める。

2 中期的目標

1 学力向上のための取組

- (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組を実施する。
 - ア 授業アンケート及び授業参観を通して、授業力の向上をめざす。
 - イ 経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。
 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成 25 年度 66%)を毎年引き上げ、平成 28 年度には 75%以上にする。
- (2) 学習意欲の向上の取組を実施する。
 - ア 基礎学力を向上させる委員会などを設置し、就職、進学に備える。
 ※教育産業などを活用して、基礎学力向上の取組を行う。
- (3) 学校経営推進費事業による支援により、「資格の藤工」を確立する。
 - ア 生徒の自己肯定感の向上と学習意欲の向上のために資格取得を奨励する。
 - イ 高度な資格にチャレンジできる強い精神力を持つ生徒を育成する。
 ※平成 28 年度には資格取得延べ人数の目標を下記の通りとする。また、合格率を 80%以上にする。

計算技術検定	情報技術検定	製図検定 (基礎・機械)	フォークリフト特別講習	ガス溶接技能講習	電気工事士 (第2種、第1種)	危険物取扱者	技能検定(シーケンス制御)	工事担任者・DD第3種
320人	180人	120人	150人	120人	120人	60人	35人	25人

工事担任者・AI	初級CAD検定	消防設備士	技能検定 (2, 3級旋盤)	技能検定 (機械検査)	技能検定 (配電盤)
15人	20人	15人	12人	5人	3人

※平成 28 年度には全生徒が卒業までに 3 つの資格を取得するように指導する。
 ※平成 28 年度にはジュニアマイスター取得者を 30 人以上にする。
 ※第 1 種電気工事士合格者数を 25 人以上にする。

2 確かな進路実現の取組

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して「生きる力」を育てる。
 - ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して新入生から、職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会等を実施し、キャリア意識を高める。
 - イ 社会人基礎力を育成するために、規範意識の向上を図るとともに企業見学、インターンシップを通して実社会を体験する取組を行う。
 - ウ 応募前職場見学などを積極的に実施し、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。
 ※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育推進の肯定的意見を平成 28 年度には 80%以上にする。(平成 25 年度肯定的意見 76.6%)
 ※インターンシップ委員会を充実させ、参加者を 20 人以上にする。
 ※今年度の遅刻者総数を維持する。(平成 25 年度 2091 人)
- (2) 全教員が進路実現に向けて支援する体制を作る。
 - ア 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、支援体制を整える。
 - イ 会社訪問などを通して求人開拓に努める。
 ※進路未定者 2%以内に抑える。
 ※会社訪問数を 180 社以上にする。
 ※就職内定率 100%を維持する。
 ※1 度目の就職試験合格率 75%以上を維持する。

3 安全、安心な学校環境づくりの取組

- (1) 生徒がより相談しやすい環境を作るとともに生徒の情報を共有化する体制をつくる。
 - ア 生徒が安心して学習・相談できる場を確保する。
 - イ 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会を開催する。
 - ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。
 ※生徒向け学校教育自己診断の教育相談体制の肯定的意見を 70%以上にする。(平成 25 年度肯定的意見 61.4%)
 ※生徒向け学校教育自己診断の教職員の協力度の肯定的意見を 70%以上にする。(平成 25 年度肯定的意見 61.8%)
 ※生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的意見を 80%以上にする。(平成 25 年度肯定的意見 74.9%)
- (2) 出身中学校との一層連携を強化する。
 - ア 中高連絡会の開催をはじめとする出身中学校との連携を強化する取組を行う。
 ※中高連絡会の開催と連絡会以外でも中学校との連携を強化する取組を展開する。
 ※就学支援及びホームルーム作りを目的として入学時の新入生出身中学校訪問を実施し、平成 28 年度には入学時の中学校訪問(訪問数 40 校以上)を常態化させる。

4 広報活動の推進

- (1) ホームページや学校説明会などを通して積極的に情報発信を行い、工業教育に興味・関心の高い生徒の確保に努める。
 - ア ブログの更新を含め、ホームページの更新回数を増加する。
 - イ 教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心とした中学校訪問を実施する。
 - ウ 体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組を実施する。
 ※年間ホームページアクセス数を平成 28 年度は平成 25 年度の 1.5 倍に増加させる。(平成 25 年度アクセス数 16000 件(1 月末))
 ※生徒、教員による中学校訪問合計数を平成 28 年度は延べ 100 校以上にする。(平成 25 年度 91 校訪問)
 ※体験入学者数(平成 25 年度 131 人)、学校説明会参加者数(平成 25 年度 124 人)、教員向け説明会(平成 25 年度 11 人)、中学生の学校訪問者(平成 25 年度 40 人)を平成 28 年度は延べ 400 人以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>回答率は生徒 94.6% (96.5%)、保護者 47.5% (50.3%)、教職員 67.7% (61.5%) で生徒、保護者の割合が減少した。</p> <p>各項目とも肯定的な回答の割合が減少傾向でその原因を検討する必要がある。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの教員 (98.4%) が「授業をわかりやすく工夫している。」と回答しているが、生徒の 62.6% と大きな開きがあった。ただ、「普通教育、専門教育とも知識や学力が身につけさせて卒業させている。」という教員の肯定的回答は昨年度より約 6 ポイント下がった。指導法や学習内容の検討が喫緊の課題である。 学年別では 1 学年の生徒の「授業の工夫」や「教員の授業への熱意」、「授業でわからないことの対応」についての肯定的な回答が他の学年より低い。その原因を検討する必要がある。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度遅刻指導を強化したが、生徒の生活指導についての肯定的意見は 65.2% で昨年度とほとんど変化がなく、遅刻指導について生徒は受け入れていると考える。ただし、教職員の生徒が生徒指導について納得していると肯定的にとらえているのは 76.3% で開きがあるため、一層カウンセリングマインドを持った指導が必要であると考えます。 今年度、昼休みに常時教育相談室を開放し、相談業務にあたったが、生徒の気軽に相談できる先生がいると肯定的にとらえたのは 61.6% にとどまった。一層、担任の協力のもと教育相談機能を強化する必要がある。 「将来の生き方について考える機会がある。」と肯定的にとらえた生徒は 77.5% が肯定的にとらえ、「進路についての情報を適切に知らせてくれる。」と肯定的にとらえる生徒も 77.4% と高く、キャリア教育について一定の評価が得られている。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の課題解決に向けて、系や教科の区別なく組織的に対応できる体制が整っている。」と肯定的にとらえた教職員は 37.7% とすべての質問項目の中でもっとも低い値となった。昨年度より 9.7 ポイント低下し、3 分の 2 の教職員が本校の組織力を否定的にとらえていた。また、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度に生かしている。」と肯定的にとらえた教職員は昨年度より 17.7 ポイント減少し、62.3% となった。「生徒情報の共有化」についても肯定的な回答は昨年度より 10.7 ポイント減少し、60.7% となった。今年度は職員会議の実施回数も減らし、学年、教科、系等の会議を設定できる時間を確保する一方、定期的に教育相談委員会を設けて生徒情報の共有化を図ったが、日々の多忙感にとらわれ教職員間で十分な情報交換や課題の検討が難しかったのが原因である。次年度は、テーマを決めて時間を確保し、学校課題を話し合う場の設定が必要である。 本校への入学について保護者の 91.2% は肯定的にとらえ、昨年度と変わりなかったが、生徒の肯定的意見は 8.5 ポイント下がり、65.8% となった。1 学年の生徒の肯定的意見が低く、授業の理解度とともに学校へのモチベーションをあげる取組の必要性がある。 	<p>第 1 回 (6/23)</p> <p>○学校経営推進費事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得を目標にした事業計画は非常にわかりやすい。 分野がちがっても資格は将来役立つ。 工科高校でしか取得できない資格にチャレンジさせる。信頼ある検定を受験させる。 企業としては要求している資格も取ってほしい。 <p>○H26 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上に力を入れているのがよくわかる。 全員に応募前職場見学を実施してほしい。 <p>第 2 回 (11/9)</p> <p>○文化祭について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が生き生きしていた。 工科高校らしい展示や和太鼓演奏が印象的だった。 生徒会執行部の生徒たちの頑張りにエールを送りたい。 <p>○学校経営の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報活動に尽力されていることがわかった。 本校に対する中学生・その保護者の支持を高めるように努めてほしい。 資格取得のために外部資源を活用することも推進してほしい。 <p>第 3 回 (2/2)</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年別の肯定的意見は学年が進むにつれて増加しているのは、学校が努力している成果と考えていいのではないかと。 教職員の肯定的回答が 50% を切っている項目については改善できるように努力してほしい。 <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学後、どれだけ生徒の力を伸ばしていくかが大切である。生徒に対応した教材作りが必要になってくる。先生方には是非頑張ってもらいたい。 生徒指導では学校によっては、学年ごとに指導の差が生じる場合があるので、注意してほしい。 受入れ企業を開発してインターンシップをもっと推進してほしい。 離職率が全国平均より少ないことは評価できる。一般的に、最近の若手社員は離職後の計画もなく、友人との相談だけで退職する者がいる。インターンシップはもちろんのこと応募前職場見学も推進し、ミスマッチのないように指導してほしい。 資格取得については、実技などを外部人材に活用してみてもどうか。 藤工で学ぶ中で生徒は確実に成長していることを実感している。先生方は自信を持っていただきたい。 就職者は最終学歴になる場合が多い。卒業後 10 年、20 年経って卒業生は一層懐かしさを感じるので、教育活動に邁進してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上のための取組	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組</p> <p>ア 授業アンケート及び授業参観を通して、授業力の向上をめざす。</p> <p>イ 経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(2) 学習意欲向上の取組</p> <p>ア 基礎学力を向上させる委員会などを設置し、就職、進学に備える。</p> <p>(3) 学校経営推進費事業による支援による資格取得の取組</p> <p>ア 学校全体で資格取得に取り組む体制を作る。</p> <p>イ メンタル力強化の取組を実施する。</p> <p>ウ 資格取得の環境を整える。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・24年度、25年度授業評価アンケート結果及び授業参観(教員相互も含む)に基づき、個人面談、系(教科)単位で授業改善方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業を実施する。 <p>イ・定期的な学習会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術研修会を実施する。 校内及び校外への授業見学等を実施する。 職員研修会を実施する。 <p>(2)</p> <p>ア・新入生を中心にした基礎学力向上の取組を展開する。(教育産業の活用も検討し、ホームルーム、教科「キャリアガイダンス」で実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職対策問題講座を2学年以上で取り組む。 <p>(3)</p> <p>ア・資格取得支援チームを設置し、普通科も含めて、資格取得推進に向けて検討する。</p> <p>イ・キャリアカウンセラーによる講演会及び面談を実施する。</p> <p>ウ・外部機関との連携、熟練技術者の招へい及び備品等を充実させ、環境作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> より高度な資格へチャレンジさせるために補講習を充実させる。 	<p>(1)</p> <p>ア・指導力・教科力向上を図る職員研修を実施する。(年2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員が各自の授業分析シートを提出して授業改善に努める。 生徒向け学校教育自己診断結果における「授業はわかりやすく工夫されている」の肯定的意見を70%以上にする。(平成25年度66.2%) 研究授業実施回数、授業見学した延べ教員数。(H25年69人→H26年80人) <p>イ・学習会、研修会の実施回数(H25年10回→H26年12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講者の学習会への肯定的意見結果。(平成25年100%の維持) 職員研修参加者数を過半数以上にする。 <p>(2)</p> <p>ア・新入生を中心にした基礎学力向上の取組の実施の有無。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における「普通教科の学力向上」の肯定的意見を70%以上にする。(平成25年度66.7%) 2学年以上での就職対策問題講座の実施の有無。 <p>(3)</p> <p>ア・資格取得支援チームの開催回数。</p> <p>イ・キャリアカウンセラーの活用回数。</p> <p>ウ・外部機関の連携実績。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得者総数の維持及び合格率を80%以上にする。(平成25年度資格取得者総数1137人、合格率71.6%) 第1種電気工事士をはじめとする高度な資格取得者数の増加。(第1種電気工事士合格者数の維持、昨年合格者22人) 	<p>(1)</p> <p>ア・電気系、メカトロニクス系での教員研修会を2回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業分析シートを各自で検討することにとどまっている。(△) 生徒の「授業はわかりやすく工夫されている」の肯定的意見は62.6%で昨年度より3.6ポイント減少。(△) 研究授業実施回数(6回)、授業見学した延べ教員数。(H25年69人→H26年94人、授業見学実施教員66人)(◎) <p>授業アンケートの振り返りを確実の実施する方策を検討する必要がある。また、指導法を検討する取組を行い、わかりやすい授業を迫及する必要がある。</p> <p>イ・初任者等の学習会、研修会の実施回数 校内5回、校外4回計9回(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者の校内学習会への肯定的意見結果。(100%) 現在、校内研修に参加した教員は過半数(48/86人)となった(○) <p>校内初任者研修で一層外部研修を取り入れて、数多くの学校の取組を知らせるようにする。校内初任研の内容を一層充実させる必要がある。教員研修に教員の興味・関心の高い内容を検討して、参加者を一層増加させるように努める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・新入生で基礎学力向上の取組を予算化したが実施できず。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「普通教科の学力向上」(普通教科の学力が身についた)の肯定的意見を66%で、昨年度とほぼ同じ結果となった。(△) 就職対策問題集を購入し3学年は実施、2学年は年明けより問題集を購入し講座を実施予定。(○) <p>普通教科の基礎学力を向上させる取組が喫緊の課題である。</p> <p>(3)</p> <p>ア・資格取得支援チーム4回開催(△)</p> <p>イ・キャリアカウンセラーの活用、20回実施(○)</p> <p>ウ・近畿職業能力開発大学校、日本分析化学専門学校等との連携(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得者数減少の見込み(1月20日現在総数は951人、合格率55.9%) 第一種電気工事士合格者17人で昨年度より5人減少。但し、第3種電気主任技術者1名合格、第二種電気工事士合格者は上期で全国8位となる。(○) <p>学校経営支援事業で目標とする資格取得をめざして、講習会の実施、外部機関との一層の連携が必要である。また、専門系のみならず普通教科の力も活用したい。また、キャリアカウンセラーも一層活用したい。</p>

府立藤井寺工科高等学校

<p>2 確かな進路実現の取組</p>	<p>(1) 入学から卒業までのキャリア教育の展開による「生きる力」の育成 ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して新入生から、職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会等を実施し、キャリア意識を高める。 イ 社会人基礎力を育成するために、規範意識の向上を図るとともに企業見学、インターンシップを通して実社会を体験する取組を行う。 ウ 応募前職場見学などを積極的に実施し、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。</p> <p>(2) 全教員が進路実現に向けて支援する体制を作る。 ア 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、支援体制を整える。 イ 会社訪問などを通して求人開拓に努める。</p>	<p>(1) ア・キャリア教育支援委員会を中心に各学年のキャリア教育を検討し、学年間の情報交換を行う。 ・外部人材を活用した各種講演会を開催する。 ・職業適性検査を実施する。 イ・遅刻者総数を2000人以下に抑える。 ・インターンシップの充実を図る。 ウ・応募前職場見学者数を増加させる。 ・就職した卒業生の在職状況を調査する。</p> <p>(2) ア・教職員対象の面接講座を実施する。 ・教科別の進学希望者対象の講習会を実施する。 イ・積極的に会社訪問を実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果におけるキャリア教育関連の項目の肯定的意見の割合を80%以上にする。(平成25年度76.6%) ・キャリア教育支援委員会開催数。 ・外部人材による講演回数。(H25年3回→H26年5回) ・職業適性検査実施回数。(H25年2回→H26年2回) イ・遅刻者総数。(H25年2091人→H26年2000人) ・インターンシップ参加者数。(H25年43人→H26年45人) ウ・応募前職場見学者数を120人以上にする。 ・就職した卒業生の在職状況の調査の有無。</p> <p>(2) ア・教職員対象の面接講座の実施の有無。 イ・会社訪問数を150社以上にする。</p>	<p>(1) ア・キャリア教育関連の項目の肯定的意見の割合は77.5%となり0.9ポイントの増加(○) ・キャリア教育支援委員会未実施、キャリアガイダンス委員会を実施(△) ・外部人材を活用した各種講演会7回実施。(◎) ・職業適性検査 2回実施(○) 3年間を通じたキャリア教育実践をまとめて、本校のキャリア教育を確立する必要がある。 イ・遅刻者総数2月25日現在1859人、昨年2077人で10%減(◎) ・インターンシップ参加者数31人となり昨年度より12人減少。(△) 生活指導部、担任団のまとまった指導が効を奏し、遅刻者は減少している。インターンシップは確実な指導を徹底させるため、大幅な参加者の増加は難しいが、インターンシップ委員会の充実によって多くの生徒が参加するように努める。 ウ・応募前職場見学者数を157人。(◎) ・卒業後3年経過した卒業生対象調査で離職率は18.7%で全国平均の39.6%(厚生労働省)より非常に少ない結果となった。(◎) 応募前職場見学者をさらに増加させ、就職のミスマッチを防ぐように一層努める。</p> <p>(2) ア・今年度、教員対象から生徒対象の外部指導者による面接講演会に変更。教員も受講した。(○) ・会社訪問数153社(来校企業数昨年度183社→今年度258社)(○) 若手教員対象の就職対策講座や会社訪問を(先輩教員とともに)実施し、進路実現に向けての支援を広げる取組を検討する。</p>
<p>3 安全、安心な学校環境づくりの取組</p>	<p>(1) 生徒相談の環境作りと生徒情報の共有化 ア 生徒が安心して学習・相談できる場の設置 イ 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会の開催 ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p> <p>(2) 出身中学校との一層の連携強化 ア 中高連絡会の開催と出身中学校との連携</p>	<p>(1) ア・生徒相談専用の空間の活用。 ・教室の環境整備。 イ・教育相談委員会の活性化と定期的な生徒の情報交換会の開催 ウ・人権教育委員会を充実させる。</p> <p>(2) ア・羽曳野市以外の中学校との連携を強化する取組を実施する。 ・新入生の出身中学校を訪問する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談機能の関連項目の肯定的意見を65%以上(平成25年度61.4%)にする。 ・教育相談室利用者数の把握。 イ・教員向け学校教育自己診断結果における生徒情報の共有化に関連する項目の肯定的意見を75%以上(平成25年度71.4%)にする。 ウ・人権教育委員会の実施回数。(H25年3回→H26年5回)</p> <p>(2) ア・羽曳野市中高連絡会以外に中学校と連携を強化する取組を実施する。(藤井寺市、松原市、富田林市との連携強化) ・年度当初の新入生出身中学校訪問35校以上をめざす。</p>	<p>(1) ア・教育相談機能の関連項目の生徒の肯定的意見61.6%で昨年度とほぼ同数となった。(○) ・教育相談室利用者数延べ15人(△) 毎日昼休みに開設している教育相談室の広報に努めたり、教職員のカウンセリングマインド育成する研修を実施したりする取組が必要である。 イ・生徒情報の共有化に関連する項目の教員の肯定的意見は60.7%となり昨年度より10.7ポイント減少。(△) 定期的に教育相談委員会、教科担当者会議を実施したが、教員による評価は厳しいものだった。より多くの教員が情報の共有化を実感できる場や生活指導の方針を共有化する必要がある。 ウ・人権教育委員会は今年度開催できなかった。担当者の企画を学年で検討して人権教育を展開した。(△) 3年間の人権教育プログラムを作成する必要がある。作成するには人権教育委員会を活性化する必要がある。</p> <p>(2) ア・松原第3中学校保護者(9/2)、富田林第2中学校2年生(1/16)が来校。(○) ・年度当初の新入生出身中学校訪問5校のみ(△) 中学校との連携を密にするためにも、新入生の中学校訪問を是非実施していきたい。</p>

府立藤井寺工科高等学校

4 広報活動の推進と進路の確保	<p>(1) ホームページや学校説明会等の積極的な情報発信と工業教育に興味・関心の高い生徒の確保</p> <p>ア ブログを含めたホームページの更新回数を増加させる。</p> <p>イ 教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校訪問を実施する。</p> <p>ウ 体験入学、学校説明会において「資格の藤工」の特色をPRし、本校の良さを知ってもらう取組を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ブログを活用して、タイムリーな情報発信に努める。</p> <p>イ・教職員による積極的な中学校訪問を実施する。</p> <p>ウ・中学校教員対象の説明会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会以外に体験入学を実施する。 ・生徒による出身中学校訪問を実施する。 ・出前授業を10校以上実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・ホームページの更新回数。 (H25年2回/月→H26年3回/月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧回数。 (H25年まで25588アクセス→H26年35000アクセス) <p>イ・教職員による中学校訪問件数 (H25年76校の維持と延べ訪問数を90校にする。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出身中学校訪問数20校、30人にする。(H25年15校、20人) <p>ウ・中学校教員対象の説明会の実施と参加人数。 (参加人数12人から20人に増加させる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会・体験入学の参加人数。(学校説明会参加者数H25年90人→H26年120人) (体験入学参加者数H25年131人→H26年150人) ・出前授業実施校数の把握。 (H25年8校→H26年10校) ・生徒による出身中学校訪問数。 (H25年5校→H26年8校) ・体験入学、学校説明会でのアンケートで「本校が、資格取得に力を入れていることを理解した。」設問の肯定的回答の割合。 	<p>(1)</p> <p>ア・ブログ更新回数1月に3回以上(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧回数2月25日現在40633アクセス(◎) <p>ホームページの年間閲覧回数は昨年度より増加したが、ブログの更新は一部の部活動や「系」に偏り、全校での情報発信体制を構築するのが課題である。</p> <p>イ・教職員による中学校訪問件数85校(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出身中学校訪問数22校、32名となる。(◎) <p>ほとんどの教員の協力のもと昨年度より多い中学校訪問が実施できた。また、3学年担任の協力によって、生徒による出身中学校訪問も実施できた。今後は塾訪問の広報活動も検討する必要がある。</p> <p>ウ・中学校教員対象の説明会を7月2日実施10人参加(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月30日体験入学実施 中学生144人、保護者26人、教員12人(◎) 11月1日学校説明会実施 中学生98人、保護者45人(◎) ・出前授業10校で昨年度と同数。(○) ・1年生による訪問は1校のみ(△) ・体験入学、学校説明会でのアンケートで「本校が、資格取得に力を入れていることを理解した。」の設問を実施せず。ただし、本校の内容がよくわかりましたかの肯定的回答97%(中学生回答)(△) <p>中学校教員対象説明会の実施日を検討し、より多くの参加者を確保するように努めなければならない。1年生の出身中学校訪問は、中学校からの依頼の有無に左右されるため、来年度以降評価指標とすることがどうかを再検討する。</p> <p>学校説明会のアンケート内容を再検討する必要がある。</p> <p>中学3年生に限らず、工科高校の良さをより広く知ってもらうために、中学生を持つ保護者対象の説明会を次年度計画していきたい。</p>
-----------------	--	---	--	--